

データ関連人材育成プログラム(D-DRIVE)

2019年度予算額 : 303百万円
(前年度予算額 : 252百万円)



背景・課題

- 世界で最初に本格的な少子高齢化を迎えた我が国が豊かな社会を実現するためには、我が国が強みを発揮できる技術とAI技術を融合して産業競争力の強化につなげつつ、減少する労働力を補完し、生産性の向上等に資するAI技術が必要であるが、我が国ではAI技術を使いこなすIT人材が大幅に不足すると推計されている。
- IT人材のうち特に、データサイエンティストのチームを率いて、組織におけるビッグデータ利活用を先導できる「棟梁レベル」の人材が不足すると見込まれており、高度人材に対する教育プログラムの展開が必要。

事業概要

【事業の目的・目標】

- 各分野の博士人材等について、データサイエンス等を活用しアカデミア・産業界を問わず活躍できる棟梁レベル人材を育成する研修プログラムを開発・実施する。

【事業概要・イメージ】

- 大学、企業等がコンソーシアムを形成し、博士課程学生・博士号取得者等の高度人材に対して、データサイエンス等のスキルを習得させる研修プログラムを開発・実施し、キャリア開発の支援を実施することにより、高度データ関連人材を育成し、社会の多様な場での活躍を促進。



- ✓ 支援対象経費：
研修プログラムの開発・実施経費（補助率1/2）
研修プログラムの全国的な普及・展開経費（補助額20百万円程度）
- ✓ 事業期間：
最大8年間（補助対象期間は5年間） ※3年目に中間評価を実施
- ✓ 支援拠点数：全国ネットワークの構築新規1拠点（コンソーシアム）

【平成29・30年度の実績】

以下の5機関を選定

- ・東京医科歯科大学(ビッグデータ医療・AI創薬コンソーシアム)
- ・電気通信大学(データアントレプレナーフェロープログラム)
- ・大阪大学(データ関連人材育成関西地区コンソーシアム)
- ・早稲田大学(高度データ関連人材育成プログラム)
- ・北海道大学(次世代スマートインフラ管理人材育成コンソーシアム)